

「富山県警察の機能強化を考える懇話会（第4回）」開催結果

1 開催日時

令和3年1月28日（木）午後3時から午後4時までの間

2 開催場所

富山市新総曲輪1番7号
富山県警察本部9階大会議室

3 出席者

(1) 懇話会委員（8名）

高木繁雄委員、尾畑納子委員、中村和之委員、野口教子委員、島谷武志委員
瀬川信子委員、小原幸夫委員、夏野元志委員

(2) 県警察

警察本部長、警務部長、警務部首席参事官 外

4 議題等

県警察から前回の質問・意見に対する回答の後、「提言（案）」について議論した。

5 意見

- ・ 小規模警察署の統合の必要性については、懇話会の中で共通認識となっている。具体的な再編の形については、関係機関や地域住民とも十分に話をしながら、丁寧に進めていくことが大切であるが、「地域を置き去りにしない」、「誰も取り残さない」、充実のための再編であることを強調していくべきである。
- ・ 交通や防犯などのボランティア団体との意見交換ができる場があればよい。
- ・ 警察署の再編、統合により犯罪や事故への迅速な対応は進むこととなるが、一方で、地域住民へのケアのために交番や駐在所の役割が重要になってくる。地域と連携、協力しながら情報共有に努める、そういった肌と肌の触れ合うアナログ的なものを大切にしながら、ハイテクなものも上手く活用し、バランスよく整備していくことが重要である。
- ・ ストーカー・DV、児童虐待等の問題に関する関係機関との新たな枠組み作りやデジタル化に関する外部の専門家からの助言について、具体的なイメージがあるのか、お聞きしたい。
- ・ この提言案では警察署の再編や建替えの必要性について、少し強く訴えるところが感じられない。例えば、老朽化した警察署は住民にとっても不便であるし、職員の職場環境としても望ましくない。また、機能面でも大きな問題を抱えていることは理解できるが、これによりどんな弊害が生じるのか、そのリスクを減らすために何が必要なのかという点で説得力が弱い感じがする。
- ・ 提言では、警察業務の高度化、広域化という側面と、地域或いは人と密着していかなければならないという、ある意味相反するような側面が今後の警察業務に求められているというところが一番のポイントだと思う。

- ・ 地域警察についてはしっかりと機能維持に取り組んでいくとともに、今後は、その状態や状況を検証していくことが不可欠となる。
- ・ 分庁舎については、いつまでも使えるわけではないので、他機関との連携の可能性も含めた議論が必要だと思う。
- ・ 地域住民に対して小規模警察署の統合を説明する際、しっかりとした論拠、根拠さらに数値的なところも含めて提示しなければならない。また、統合後の効果を検証するとともに、社会情勢に伴い変化する警察へのニーズにも柔軟に対応できるような再編のあり方を検討してほしい。
- ・ 再編の検討にあたっては人口推移だけでなく、地域の特性にも十分に配慮して進めてほしい。
- ・ 提言は10年、20年先を見据えて、富山の安全・安心を守るというものにしなければならない。
- ・ 防犯カメラの更なる設置促進については、孤立化・高齢化する社会の中で必要性が高まってくる。
- ・ 自治体消防は早くから統廃合が進んでおり、その体制はある面で警察とも類似しているため、再編案の検討にあたり参考になるのではないかと思う。